



2018.11 No.00

はじまる、



名畠 恵 ○
錦二丁目エリアマネジメント株式会社
豊島 徳三 ○
長者町おじさん
阿部 充朗 ○
MITTS COFFEE STAND
黒田 義隆・黒田 杏子 ○
ON READING
大島 恵之 ○
長者町 割烹まるせん
森下 薫 ○
moca moca
森下 敬司・山川 紋 ○
STUDIO UNBUILT
大長者まちへそ新聞 ○
錦二丁目
エリアマネジメント株式会社

まちにはいろんなはじまりがある。
暮らしのはじまり
しごとのはじまり
出会いのはじまり
いのちはじまり
たくさんのはじまりがはじまるまちが
その先にある姿をつくっていく。

錦二丁目。
古くは名古屋城の城下町として、

昭和の時代には織維問屋街として栄えたまち。

それぞれの時代で、それぞれの志を胸に、

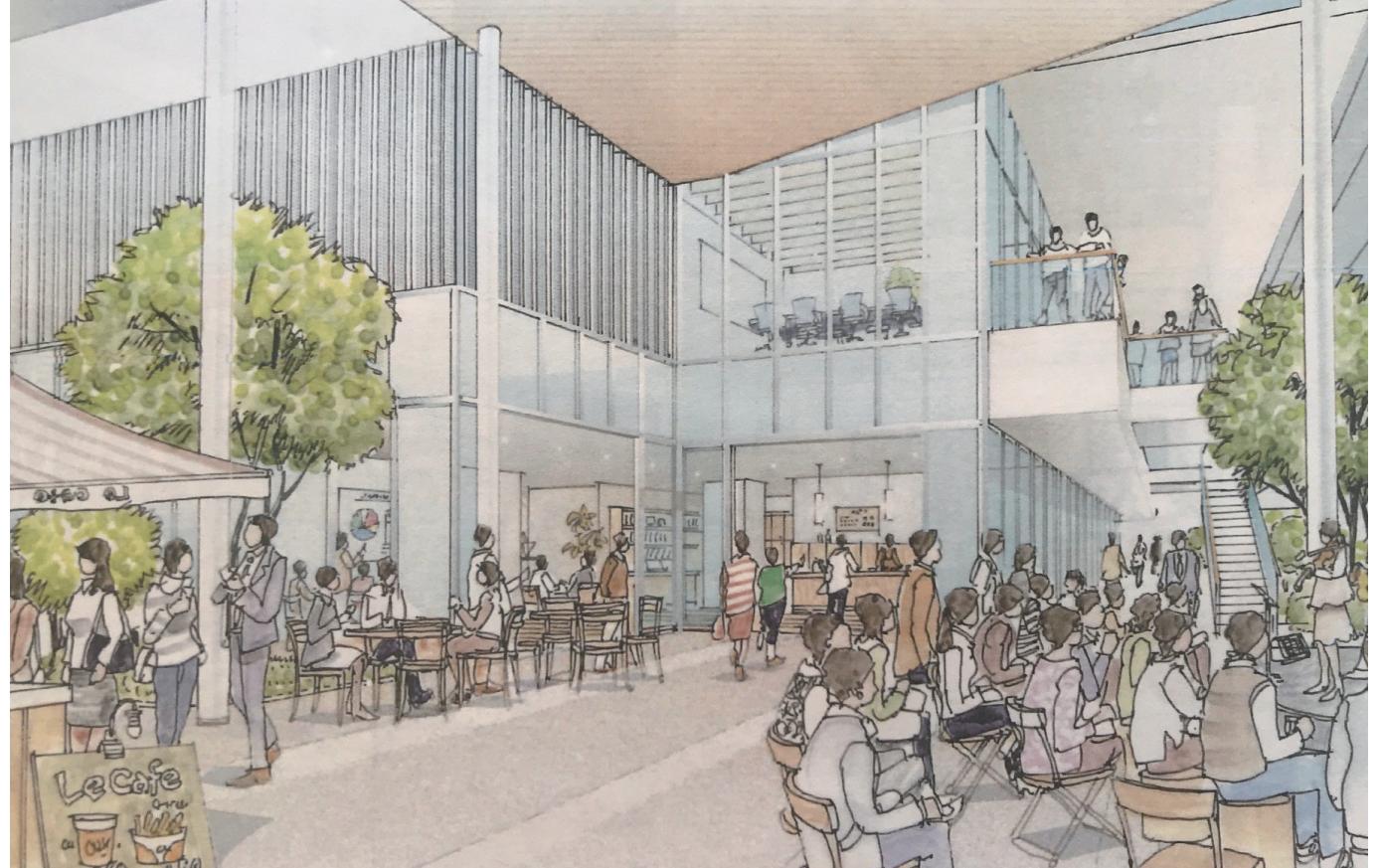
夢をかたちにした人たちがいます。

そんなみなさんに「はじまる」をキーワードに、

まちへの想い、これからまちに期待することなどをお聞きしました。

KAISYOOOOOO

錦二丁目地区では、2018年3月に町内会やまちづくり協議会、協同組合（地域の企業からなる団体）が主体となつて、「錦二丁目エリアマネジメント株式会社」を立ち上げました。この会社は、まちの運営のお手伝いを通じて、このまちでこれから生まれるたくさんの「はじまり」を応援するための様々な取り組みにチャレンジする会社です。これから新しい暮らしをはじめたい人、新しい仕事を生み出したい企業、何かにチャレンジしたい人など、様々な人と連携しながら、思考と試行を行な、アイデアをビジネスに結び、利益をまちの事業に還元する、しなやかで力強い集団でありたいと思います。城下に時を告げる「時分鐘（じふんしゆう）」のように、様々なはじまりの音が響くことを期待しています。



7番街区再開発地区における まちの拠点運営

コミュニティの場づくりと
その運営によりひとやまちをつなぎます

公共空間の活用と維持管理

道路をはじめとした公共空間を活かし
まちの賑わいを生み出します

既存空間のリノベーション支援事業

暮らしやアート、しごと作りを含む
古いビルの活用をお手伝いします

コミュニティ支援事業

町内会や組合と協力し、安全で
経済的なまちのコミュニティを支えます

いろんなはじまりを生み出すプロジェクトの展開

でも、動きはまだはじまつたばかり。たくさんのアイデアがありますが、どれもこれもまだどんなかたちで、誰と一緒に、どんな仕組みでやるのか、考えている最中です。「あんなことやろうよ」「こんなことができるよ」「一緒にこんなチャレンジをしよう」「一緒に何かをはじめたい」と、ひと、団体、会社の皆様のお声がけを期待しています。

[カイシュー]
KAISYOOOOOO No.00

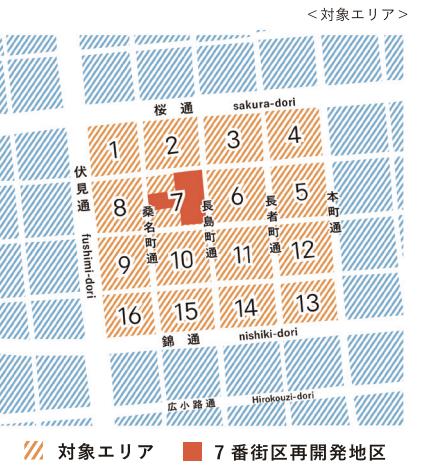
■発行日 2018年11月14日
■企画 KAISYOOOOOO編集部
(錦二丁目エリアマネジメント株式会社 内)
■編集・文 谷 亜由子
森田 純圭 (錦二丁目エリアマネジメント株式会社)
■ディレクション・デザイン 浅井 梨紗 (kapsel)
■撮影 浅井 雅弘
■発行 錦二丁目エリアマネジメント株式会社
〒460-0003
名古屋市中区錦2-13-1 宮本ビル4階「まちの会所」内
MAIL kaisyooooo.n2@gmail.com

次号発行予定
2019年 4月
(4月より年3回発行予定)

編集後記：初めて誌面作りにチャレンジしました。
回を重ねる毎に良いものになっていくはずです。
皆さま生温かく見守ってください。(浅井雅弘)

応援する会社 はじめます

<会社概要>	
名 称 所 在 設 資 本 取 締 株	錦二丁目エリアマネジメント株式会社 称：会所（カイシヨ） 地：名古屋市中区錦2丁目13-1（2018年現在） 立：2018年3月 金：100万円 代表取締役社長：名畠 恵 役：滝一之、坪井俊和、堀田勝彦 主：一般社団法人錦二丁目まちづくり発展機構



「錦二丁目エリアマネジメント株式会社」では、現在4つの分野でプロジェクトを企画中です。その1つが、3年後に開業が予定されている「錦二丁目7番街区再開発事業」でのまちの暮らしがこのまちで暮らしを始める場所の足元で、このまちの暮らしをしゃしごと、憩いや遊び、学びを生み出す場の運営を行います。また、道路をはじめとした公共空間や、地区の中にまだまだたくさんある古いビルを、多くの方に使っていただきための取り組み、そしてまちのセキュリティやエネルギー、コミュニティを応援する取り組みも企画中です。

「錦二丁目エリアマネジメント株式会社」では、現在4つの分野でプロジェクトを企画中です。その1つが、3年後に開業が予定されている「錦二丁目7番街区再開発事業」でのまちの暮らしをしゃしごと、憩いや遊び、学びを生み出す場の運営を行います。また、道路をはじめとした公共空間や、地区の中にまだまだたくさんある古いビルを、多くの方に使っていただきための取り組み、そしてまちのセキュリティやエネルギー、コミュニティを応援する取り組みも企画中です。

(5) 明和93年(2018年)10月1日(月曜日)

Greater Choja Machiheso Newspaper

長者町新開古跡区



No. 009

Oct.1,2018

發行: 大長者まちへき新聞社

アートファーミングって何？

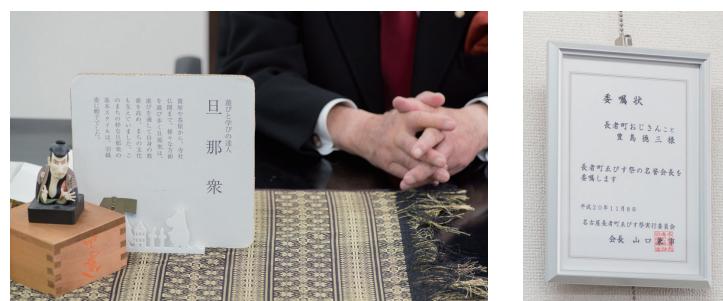
アイデアの概要を発表した。アーチストや人々による都市の隙間で時間を活用する「商業」のアイデアを募る実際に長者町内で農業や土壤といったテーマをキーワードとしたアーティスト達の展示期間中に入れ替わら開催していく。また、アーティスト達は実際に長者町に集つて泊りかけのアート・ヘッカソンと呼ばれるイベントを以降に実践する計画だ。その場の面白さではなく、長期的にはアーティストが協力をしながら作業や経費を提供して街の構成要素となりうるようなアイデアを出すべく、アート

始願叶た 状中罐だ。いいツ月 // 三三 //

A black and white manga panel featuring a robot with a large head and a small body. It has a speech bubble above it containing the Japanese word "すこい!" (Wow!). The robot appears to be in a workshop or laboratory setting, with various tools and equipment visible in the background.

This collage consists of three panels. The left panel is a black and white cartoon showing a man with a wide, toothy grin and a speech bubble containing the text 'すきだよ' (I like it). The middle panel is a close-up photograph of several dark, coiled computer cables. The right panel is a vertical column of Japanese text in a traditional woodblock-style font, reading from top to bottom: '半別アラスト沖縄介' (Hankoku Butai Arasuto Okinawa Jisshi), '半別アラス' (Hankoku Butai Aras), 'Complicated Autopilot' (Automated Pilot), 'Turned test' (Test turned), 'Computer and Humans' (Computers and Humans), 'Apart' (The略 of Apart), '人間と機械を判別する' (Identify humans and machines), 'チューリングテスト' (Turing Test), 'いう意味だ。チューリン' (That's what I mean. Turing), 'グテストなんて因習考査実驗' (Routine examination), 'みたいな絵空事だと西つ' (It's like a Western-style drawing), 'ていると、実はあなたが' (And if you think), '人間か機械か判別される' (Whether you are human or machine is determined), 'テストを常日頃から受け' (Tests are taken every day), 'ているのだ。すでに機械' (It's already a machine), 'となりあう日々。' (Every day becoming). Below the main text is a smaller note: '(テクノロジーアーティスト)' (Technological Artist).

カラス達は、かなり知的な動物の一種で、ひなは親鳥から一年から二年の長い教育を受けるのだという。アメリカのハッカーであるジョシュア・クレインは、長い教育期間を持つカラスならば、人間の経済活動を理解し、仕事をすることが可能のではと推論を立て、オリジナルの装置を開発して実験を行つた。装置は特定の物体を拾つて入れると餌がでてくるという自動販売機のようなもので、最初は装置の周りに分かりやすく拾わせたいタバコの吸い殻等を置いておき、関連を理解させれる教育を行う。段階的に吸い殻を装置から離し、最後はそれを片付けてしまう。結果吸い殻拾いをすれば餌がもらえるという経済活動を理解したカラスは町中を回つて吸い殻を集め、装置に入れれば餌を食べられるようになり、ゴミ袋を漁る必要もなくなり、路上は綺麗になるというのだ。ハッカーなどとコンピューターから情報を溢れだりするような偏った印象が先行するが、現状を開拓する面白いアイデアを出して、みんなの役に立てるようすることこそがハッカーの真骨頂なのだろう。長者町で来年頭から始まるハッカソンペーク達のアイデアコンペだ。街の隙間の空間や時間を利用して数々の名案



長者町おじさん 豊島徳三

錦二丁目エリアマネジメント株式会社
社長 名畠 恵

名：そうだったんですね。長者町おじさんの町への熱い思いは、そういう歴史が背景にあるからなんですね。

長：そう。出身はね。に豊島に入社して55年町での時間が長い。途抜けてはいるけれどもわ

入った人たちのほとんどが役職を持ち、5～6年前まで長く勤めてくれたよ。

長...古い人間だから、そういうことは
はこだわつてしまつんだね。しかし、
長者町もかつて栄えた織維関係の会社
がいまや半分から三分の一ほどに減つ
てきてる。いつまでも問屋街というこ
とに固執しているのは良くないね。町
の人、特に若い世代の人たちがこれか
らどういう方向に向けてやつていくの
かは大変気になります。

まずね、町には目玉が必要ですよ。例
えば大須、円頓寺、そして覚王山と、
それぞれ町の賑わいを見ていると共通
しているのはみんな門前町。大須観音
があり円頓寺があり、日泰寺、弘法様

がある。長者町にもお聖天様（福正院）があるので、日玉にはできるのがいいね。あそこの神様、何だか知つてる？

名畠（以下・名）‥いよいよこの町にエリアマネジメントの会社が立ち上がり、町のための様々な業務、事業の運営を担つていくことになりました。今日は、古くからこの町で商売をなさつてきた長者町おじさんに、「はじまり」をテーマに、経営の極意とか、いろいろおうかがいしたいと思つています。

長者町おじさん（以下・長）‥なるほど。わかりました。そもそも豊島はね、名古屋でなく一宮で創業した会社なんですよ。

名‥そうなんですか？

長‥しかし、豊島ビルのあるこの場所は豊島家にとつては名古屋で最初の土地。まさにここが名古屋での始まりの地と言えるね。創業は1841年、天保12年。大正時代に「豊島家」がこの土地を買い、名古屋に出て来た。

長…そう、歓喜。和合の神様だ。男女の仲もうまくいく、とか、そういうご利益があるのを目玉にして売り出すとかね。何かの努力が必要。さらに町には「旦那衆」のような人がいないといけないね。もともと長者町には芸妓さんがたくさんいたんだが、いまではお座敷が減ってしまったとみんな嘆いてる。これは名古屋の財界人たちにも責任があるが、町に旦那衆と呼べる人が少なくなったのも大きな理由。残念だね。

名…でも先日、まちづくりに関する会議に参加した時、名古屋で一番「旦那衆」が多いのは長者町だね、つて行政の方に言わされました。長者町おじさんはじめ、まちづくり協議会の方々も、町のために自分のお金を出して関わってくれている。そういう人がいるというだけですごい町だと言わされました。ところで、長者町おじさんはご出身も一宮ですか？

名..かつこいい！会社を運営するうえで、そういう以心伝心は大切だと思いませんか？

長..大切だと思うが、今の時代は難しいね。昔と違つてみんなメールでやり取りする時代になつてしまつた。けれどもどんな時代になつてもやっぱり、間同士が直接話し合あう、コミュニケーションをとるのは大事なこと。かつては仕事をやつていたことがあるがね、それまで毎年せいぜい6～7人しか採用していなかつたところを、僕の担当になつていきなり45年に20人、46年には30人と一気に採用したことがあつた。将来を見据えて、これから製品の仕事が増えれば労働力の確保が重要なことと思つたのでね。それまでは地元の人たちが、北海道でトロール船に乗つていて、なかなか何でも来い！という感じで採用した。結果的に当時

長…いいんだよ、御用聞きで。でもね、サバをくださいと注文されて、とにかくどんなサバでも売つておけばいいというわけじゃない。今日はこんな生きのいいアジが入つておりますがいかがでしょうか、と自信を持つて言えるよう、自分が目利きにならなきや。時にはお客様の要望以上のものを自信をもつておすすめすることも必要。使い走りとの違いはそこだからね。

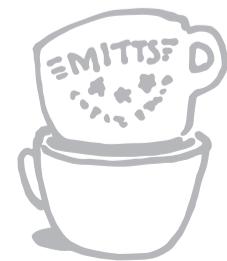
町も同じ。もっと自分たちの住んでいる町に誇りを持つて発信することが大事でしよう。いま注目されている名古屋駅、そして栄の再開発も始まる。その中間に位置するこの町も他の真似をしているだけではダメ。新しい魅力を持つた町にするためにも、どこを目指すのかをしっかりと考えないといけない。まさに「不易流行」。古いものにしがみついてはいけないが、商いの町だからこそ根付いてきた「おもてなしの心」だけは忘れてはいけないね。

MITTS COFFEE STAND

/ To Go Kurumamichi // adedge



開店後は自然と長者町や錦二丁目の様々な取り組みに関わらせてもらうことが増えて行くんですが、店を始めた頃の僕は、本当にただの「コーヒーマーケット」で、町のことを考えるとかそんな視野も余裕もなかったですね。僕はMITTSが町に溶け込めたのは、こちらから積極的に動いたというよりも、この町に外から来たものを受け入れる度量があつたからだと思うんです。僕自身



飲んでもらえるお店がいいな、と。朝の出勤前、昼の休憩時間、仕事帰り、そんなひとときにふらりと寄つても見えるようなお店。それもあってオフィス街を選んだというのもありますね。お店を開く前には独自の市場リサーチもしました。長者町にある喫茶店の椅子に座つて何時にどれだけお客様さんが来るかをカウントしたり。町には喫茶店がたくさんあつて、しかもお客様はどんどん来るので「これは行ける!」と思いまして。

さらに、一度は住まいを別の場所に移した古くからの地権者さんたち、つまり、この土地にもともと愛着を持っている人たちが、再び住まいを戻してくれると一層活性化するんじゃないかとも思います。地権者さんがちゃんと住んでいる町は健全だと思うので。どれも簡単ではないかもしないけど、だからこそ、そこに関わる人たちみんなが意志を持つて、町のこれからを考え続けていきたいですね。

じいちゃんに連れられて一緒に長者町に来たりしていました。高校生になつて初めて一人でカフェに入ったのもこの町。20年近く前かな、当時えびすビルにあったTシャツプリントの店にTシャツを作りに来ちついでに、一階にあつたカフェに入りましたのはいいけれど、お金が無くてメニューの中に頼めるものがほとんどない。お腹は空いてるのに一番安いピクルスとか、そんなものを注文して仕方なく一人でそれを食べた思い出がちります。振り返れば自分にとつて何かと縁のある町だったのかもしませんね。

社会人になり、いろいろなお店で働きながら、いつかは自分の店を持ちたいと思っていました。やるんだつたら

身、来る者は拒まず、の姿勢ではいたんですけど、やはりそれだけではこうはない。双方の思いがあつてこそですかね。

町との関わりを重ねていくうちに、自分は町が好きなんだな、と気づきました。そして、町のことを理解するには、フィールドワークが大事だということも。自分のいる場所のことだけでなく、その周辺も含めて町は地続き。みんな繋がっているので、やはり常にまわりにも関心を持つていてほしいと思います。

エリアアマネジメントが始まるにあたり、その進む先、目指すところの難しさはたくさんあると思います。ビルが増えることも悪いことではないけれど、人の顔、人と人との関わりが見えない建物ばかりになつてほしくない。「人の声が聴

STUDIO UNBUILT

スタジオ アンビルト



森下 敬司
Morishita Keishi

森下：4年間ほど個人事業主としてやつてきた業務を、2017年月、会社として立ち上げました。内容を簡単に説明すると、建築と設計事務所さんとを繋ぐ「ファン・アービル」と、企業と個人の力繋ぐ「マドリー」という2つのサイトを運営しています。小さな事務所や工務店は、家づくりを描くと、まず図面を何十枚も描くのですが、これが非常に大変で、自社タツフだけではこなしきれないことが多いんです。いくつも仕事が重なる夜でも追いつかない。そういう作業をインターネットをて外注できる仕組みを作りました。

山川：「スタジオアンビルト」は基本的に建築関係者同士のサービスですが、「マドリー」は、このサービスを使って建築士さんに間取りを作つてほしいという一般の方からの依頼がきたことがきっかけで始めた一般ユーザー向けのサービスです。去年の12月くらいにアイデアが生まれて、正式なスタートは翌年の7月。実際には5月ごろにα版として始めていて、すぐに多くの反応をいただいていました。住会社さんから提案された間取りだけでは納得できなくて、困っている方がいかに多いかということですね。私たち、大学時代の友人でお互いに建築を

森下：僕たちもこの町で会社をスター
トして一年余り経ましたが、実はま
だ町のみなさんとそんなに交流できてい
ません。同じように起業仲間
の人たちが仲良くなれそうだし。
—— そう。人材のシェアとか。事務員さん
や飲食店の店員さんなど、忙しい時間
帯だけ来てほしいとか、D—I—Yするか
ら手伝って！みたいな困りごとを気軽に
に書き込めてシェアできる町のウェブ
掲示板なんていいかも。また、そこで
生まれるリアルな交流をきっかけに町
にシェアし合えることもたくさんあり
ます。便利です。近所同士だから気軽
にシェアし合える場合にこそウエ
ブは便利です。

学んでいたんですが、卒業後にはそれ別の仕事も経験しています。だからこそ、再び建築の世界に戻ってきたときに、問題点や違和感にも気づくことができたのかなと思います。

山川：実は私、最初、森下から会社の場所を「伏見」にするって聞いたときは、「ううん？」と思つたんですね。よ。。。。でも、「長者町」だって聞いたら、あ、長者町ならいいか！って。なんか、学生時代から新しいことが起きてるお洒落な町っていうイメージがあったので。



NISHIKI2 CHOJA

て、うちに白羽の矢が立つたんですよ。昭和の終わりで、ちょうどバブルの絶頂期。周辺には新しいビルが次々に建つてました。そんな中で、このビルは当時すでに築20数年。でもそんなことはあまり気にならなかつたですよ。良いところだつてたくさんあるし。なにより地下は夏は涼しくて冬は暖かいからね。

やつてきたんですよ。チャンスや出会い
いつてだいたい不意にやつてくる。だから、
その時にすぐ動ける準備はいつでも
しておいた方がいいんじやないかとね。
うちが出している名物の「煮うなぎ寿司」、
これがセントレア（中部国際空港）で販
売してもらえることになつたのも、突然
やってきたチャンスにすぐ乗つかること
ができたからなんですよ。

空港の初代の社長の平野さんという方
がいつもうちを畳肩にしてくれていて、
煮うなぎ寿司のクオリティも認めてくれ
ていたんです。開港直後の打ち上げにも
ここを使つてくれて、その席で「これ、
空港で出そよ！」って推薦してくれ
た。鶴の一聲で即決しそうな雰囲気だつ
たんだけど、僕の方が慌てて「いや、



やつぱり社員のみなさんにも一度は食べてもらわないと」と、と言うことで翌日、試食のためにみんなの分を作つてセント・レアまで届けましたよ。それで実際に営業部長さんとかにも食べてもらつて、改めて「是非、お願ひします」と依頼をいたしました。ありがたいお話をうかがつた。実際お店で出すのとはわけが違う。多い時には一日100個くらい作らないといけないので、態勢もできていない。そりやあ店は大変でしたよ。はじめはパッケージも手作りでした(笑)。

そもそも煮うなぎ寿司を考案して店で出せるまでが試行錯誤の連続。完成までに数年かかっている。それがひょんなきつかけで空港で販売してもらえるようになったわけですよ。僕は平野社長にも、「これは商品になるまでに30年近くかかりました。だからこれから30年かけてじっくりメジャーになつてくれればいいんです」と言いました。不意に訪れるチャンスにさつと乗れる準備は大切だけど、結果を焦ることはない。太く短くより細く長く。じっくり育っていくには価値を理解してくれる人との出会いも必要ですかね。

いま、この町の一角に新しい風が吹き始めているけれど、庶民派の名畠さんならぬうきつとたくさんの人を味方にしてどんな状況もチャンスにできるんじゃないかなという気がします。何より彼女は日本人には珍しいほど超ポジティブ! どんな状況でもなんとかなるっていう強さは何よりも貴重ですよ。きっと「ああ、こんなやり方があるんだ!」ってみんながびっくりするようなまちづくりを実現してくれると期待します!

A vertical card for 'moca moca'. At the top, it says 'moca moca' in white on a teal background. Below that is a large logo with 'moca' stacked vertically. To the right is the operating hours '11 - 19時' and '定休日 / 水'. A grid of 15 light blue squares is on the left. In the center is a red location pin icon. On the right, there's text '錦2' above '5-29' and 'えびすビル' below it. At the bottom right are icons for Facebook and Instagram.

ON READING オン リーディング



私たちには町を選んで何かを始めみたいな感覚が昔からほんぢないですよ。それよりも、いいタイミングでいい話が来たとか、いい出会いがあったとか、そちらの方を信じる」とが多いです。

当時（2006年、えびすビルpart）に「YEBISU ART LABO FOR BOOKS」をオープン）も、長者町である必要ないや、そこでやることへのこだわりはなかったですね。町の印象も特に持つていてなくて、「問屋街だな」くらいの感じでした。ただ、今池とか栄、大須、たいてい、すでに色が着きすぎているところではない町で何かをやりたいつつ、いう気持ちがありました。いま思えば、あの頃の長者町にはそういう雰囲気があつたのかもしれませんね。問屋街という特徴は、確かに他の町にはない個性ですけど、それとはまったく違う新しいことが始まるうとしていて、自分がそこに関わるのは面白そうだな！と思つていたような気がします。

実は、最初は私たちに直接お話をされたのではなく、私（杏子さん）の友人に町の人から声がかかつたんです。びすビルができた当時、町に本屋がないねという話が町の中で持ち上がりたくしく。でもその友人は本のこと詳しいわけではないので、その頃、エフ愛知」で働いていた私が手伝うことになりました。それが最初に開いた「ロータス」という本屋です。私もナデイツフではアルバイトだし、本の流通のこととか何もわからなかったですね。それはもう、ものすごく大変でした。「ロータス」は2年

どで閉じましたが、そのお店に携わり、いろいろ学べたことがきつかけで、自分たちの本屋をやろう、と思うようになりました。その後、クラブイベントやカフェで本を売ったりする活動をしていたのを、同じえびすビルの中でギャラリーをやっていた原さんという方が目にとめてくれて、やがて自分たちの店「YEBISU ART LAB FOR BOOKS」を始めたことになるんですが、店を構えてからも、もっと楽しく、もっと自由にやれることがあるよね、つていつもいつも考えていました。

結局そこで4年半。もともと小さなお店でしたし、徐々に手狭になってしまったということもあって、今の場所（東山公園）との出会いがあり、場所を移しました。

あります。トリエンナーレを機にアートを根付かせた町というイメージと、飲食店に来るお客様で賑わう町のイメージは、どこかかけ離れている気がするんですね。とはいってもイベントやお祭りが一時の盛り上がりでしかないのだとしたら、それも仕方ないのかもしませんね。町にとっては日常的に賑わい、繁盛することは大事ですから。

長者町にいた頃、問屋街の独特の雰囲気がかけっこ好きだったんですよ。歴史に裏付けられた町の個性もあるし。古屋以外の人の目から見ても興味を感じるところだと思います。昔からの商いの町という特徴を生かしながら、これからは文化的な要素ももっと充実していけば、町の表情も豊かになるでしょうね。ミリオン座が移転してこられるらしいし、それもいい気運になりそうですよね。

さらに期待することがあるとしたら、私たちがそうであったように、何かを始めたい、挑戦したいという思いを持つ人たちのステップになるような町であってくれたらいいな。長者町って、古くは織維業で栄えた時代から起業の町でもあったんですよね。時代は変わっても、包蔵力のある町であり続けてくれることを期待しています。